

つかめ天職

目指すは「命」を守る スペシャリスト

室根の静かな里山から、
救急現場に駆けつける救命の担い手が誕生する

教育の場から 救急救命士育成の聖地へ

残暑厳しい9月初旬、吹き抜ける風はどこか秋の気配を感じる。青い空と緑の山々に囲まれた室根町矢越の静かな里山に、ひとさわ映える白亜の校舎がある。「国際医療福祉専門学校一関校」(立岡伸章救急救命学科長、学生56人)だ。キャンパスに響く教官の声と学生たちの機敏な動きに、気持ち引き締まる。同校は、09年3月に閉校した

社会人としてのマナー教育やコミュニケーションスキルアップ講座の導入④消防・救急の第一線で活躍する外部講師の講義①など、きめ細かい指導と実践的なカリキュラムが特徴だ。
**まっすぐ目標に向かう
学生たちの姿勢**

9月13日、同校を取材した。2年生の午前の講義は小論文。受験を控え、余念がない。立岡学科長から試験の傾向と対策などの説明を受けた後、実際に小論文を書く学生たち。制限時間内に与えられたテーマを仕上げている。音のない空間に、ペンを走らせる音だけが響く。一方、1年生は体育館で救急現場のシミュレーション実習(リアルに再現した現場で行う実践的訓練)だ。隊を組んで現場に臨み、本番さながらに心肺蘇生などの処置を行う。資器材一式を携えて立つ姿、機敏な動き、きびきびした発声など、早くもベシヤリストの風格が漂う。頼もしく見えた。
昼休み返上で訓練に励む姿があった。市内川崎町で開かれる「応急手当てコンテスト」に出場するためだという。
同コンテストは、4人1組で行う災害想定応急手当ての競技。メ

旧市立釘子小学校の校舎を再利用し、11年4月に開校した救急救命士養成専門学校だ。学校法人阿弥陀寺教育学園(本部千葉県)が運営。医師の指示の下、気管挿管や薬剤投与などの救急救命処置を施す救急救命士を目指す人材を2年課程で育成する。卒業すれば、国家資格である救急救命士の受験資格を取得できる厚生労働省の認可を受けた指定養成機関だ。
現在1年生27人(男22、女5)、2年生29人(男25、女4)、合わせて56人の学生が救急救命士を目指し、日々勉強に励んでいる。一関校のほか千葉校と七尾校(石川県)にも救急救命学科がある。

尊い命を救う 救急医療のスタートライン

人命を守る救急救命士には、冷静な判断力と高度な救急救命処置が求められる。同校で学ぶ学生たちは、事故や災害現場の最前線で尊い命を救うために必要な救急の精神、専門的な医学知識、高度な救急救命技能を勉強している。学科は少人数制で、①卒業後の救急救命士国家試験合格までを完全サポートする「合格保証制度」②地方公務員試験対策で実績のある教育提携校とのタイアップ③

ンパー同士、声を掛け合いながら手当てする表情は真剣そのもの。村上大樹さん(1年)は「実習訓練はさまざまな状況を想定して行います。臨機応変に的確な処置が求められるので、技術と知識をしっかりと磨きあげていきたい」とりりしい。人命救助のプライドが伝わってくる。

**来春いよいよ一期生が卒業
挑戦は加速する**
来春3月、いよいよ一期生が卒業する。それぞれの夢を実現するために、受験への挑戦は始まっ

教育の場から、命を守るスペシャリストを育む場へ

- 1 門柱には今なお懐かしい釘子小の校名
- 2 白亜の校舎が青い空に映える
- 3 小論文講義のひとコマ
- 4 応急手当てコンテストに向けた訓練
- 5 訓練で使用する除細動器と人工蘇生器
- 6 他動的に人工呼吸など行うバックバルマスク
- 7 救急現場シミュレーション実習
- 8 心停止前後の急性期患者を想定したシミュレーション教育器材 ALS (二次救命処置) シミュレーター



ている。万全の対策を講じてきた立岡学科長。「二期生なので、それなりの実績を期待している。頑張つて、ぜひとも救急救命士になってほしい」とエールを送る。救急救命の知識や技術だけでなく、社会人としてのマナーやコミュニケーションを重視する同校は、地域や学校の行事などに積極的に参加して住民との交流を深めている。また、地域イベントの救護対応、救急救命講習や沿岸被災地のがれき撤去作業など、ボランティア活動にも参加して、住民の目線や視点を学ぶ。

渡辺麗さん(2年)はこの学校を選んでよかった。学校生活を通して目標もはつきりした。みんなに頼られる女性救急救命士を目指します。まっすぐ前を見る。傷病者は赤ちゃんから高齢者まで幅広い。いつ、どこで、誰と、どんな状況でコミュニケーションするかわからない。「二人の人間として、社会人として、相手の気持ちに寄り添える救急救命士や救急隊員になってほしい」
救急救命のスペシャリストである前に、立派な社会人である。立岡学科長の願いだ。

INTERVIEW

救いたい気持ちと恩返しを大切にしたい

村上大樹さん 国際医療福祉専門学校一関校
19 1年 気仙沼市



中学生の頃、弟が交通事故に遭ったことをきっかけに、けがや病気で苦しんでいる人を救う仕事がしたいと思いました。学校は自然に囲まれ、学ぶ環境は最高です。救急救命士に必要な知識、技術や体力をしっかり身につけ、将来は消防士、そして救急救命士になって古里で働きたい。震災のときに助けてくれた人たちが地域に恩返しする気持ちも込めて頑張っています。

女性だからできることも大切にしたい救急救命士を目指して

渡辺麗さん 国際医療福祉専門学校一関校
19 2年 奥州市

医療に従事する仕事に興味がありました。学校説明会で救命士の活躍に感銘し進学することを決めました。女性救命士はまだ少ないので、私も救命士になって女性も活躍できる職業であることを一層広められるよう一生懸命勉強しています。学校説明会や見学会は頻繁に開いているので気軽に来て、救命士の仕事を体験したり考えたりしてほしいです。お待ちしております。



地域の空き校舎が再び活用されたことはありがたいことです

新沼一郎さん 67 室根町第15区自治会長

釘子小学校が閉校したときは寂しさを感じました。専門学校として再活用されて人の息吹が感じられるようになった今はどこか安心します。ありがたいことです。学生たちには、自然豊かな環境の中で一生懸命勉学に励み、社会人として大いに活躍することを期待しています。10月下旬に開かれる学園祭などで、専門学校と地域住民の交流も深めていきたいと思います。



一関市で学んだ経験を生かし、さまざまな現場で活躍を

藤野真進さん 26 一関西消防署



学生と一緒にボランティアに参加しています。専門知識を持った人が増えることで、皆さんに安心してイベントを楽しんでもらえていると感じます。救急活動は地域社会と共にあります。また、学校で学んだスキルは命に携わるさまざまな現場で必要とされています。一関市で過ごす日々や地域住民との関わりを大切に、卒業後は各分野で活躍してほしいです。